

第 37 回九州地域医学研究会の開催にあたって

実行委員長 松本 康

佐賀県医療センター好生館 救急科医長 (23 期卒)

第 37 回九州地域医学研究会を開催させて頂くにあたり、皆様より準備の段階からご支援とご協力を頂いたこと、心より感謝申し上げます。

九州地域医学研究会は今回 37 回目を迎えました。自治医科大学同窓会の全国の支部の中でも発展し続けている九州地方における貴重な研究会です。この間、本研究会は九州各県で地域医療に従事する諸先輩方の多大な御尽力により、地域医療の充実を推進し、各地域のリーダーとして診療や地域保健活動、さらには、教育や研究においても大きく貢献してきております。

医療界では古くから専門特化が医師のブランドとして確立しており、臓器別の専門特化さらには細分化が進んでいましたが、2007 年によりやく厚労省医政局から総合診療医育成のビジョンが公表されました。一方で我々が母校自治医科大学は、1978 年一期生を輩出して以来、多くの卒業生が各地域の中核病院や診療所における積極的な活動を通して、おのずと専門の垣根にこだわらず多角的な思考で、また人にとどまらず地域全体を見据える診療や地域保健活動を行っていました。つまり我々自治医科大学卒業生は総合診療のパイオニア的存在であると考えられます。

2018 年新専門医制度発足に伴い、19 番目の基本領域として総合診療専門医が追加され、それに先立ち総合診療専門医プログラムが全国の教育指定病院に導入されました。医療界で総合診療への関心が高まってきています。そこで今回の研究会のテーマを「総合診療の魅力」とさせて頂き、総合診療に関する知見をさらに深め、かつ新しい知識を得る機会を設けることに致しました。我々が、総合診療のリーダーとしてこれからの社会環境の変化に対応できれば医療の未来は良い方向に変わってゆくでしょう。

今回の研究会では、諸先輩方の御協力を得て教育講演・特別講演およびパネルディスカッションを企画いたしました。プライマリーケアの第一人者である林寛之先生と、地域包括ケアのスペシャリストである花戸貴司先生に御講演をお願いしました。さらに九州各県からパネリストをお呼びし、当県における地域医療の指導者である杉岡隆先生主導のもとパネルディスカッションを設けました。もちろん一般演題も各県より多種多様かつ興味深い発表があります。

総合診療について本研究会で地域・世代問わず活発な議論が行われ、また交流を深め、明日の総合診療に生かして頂ければ幸いです。これらのことが、本研究会の開催を担当致しました私ども関係者全員の思いであることをお伝えし、実行委員長の挨拶とさせて頂きます。

多くの皆様方のご参加をお待ちしております。